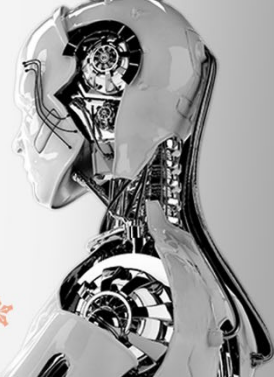


Robotics Report

新たな常識のはじまり

感染防止に活用された ロボティクス技術

nikko am
fund academy



「真の実力は危機に直面した時に初めて試される」といいます。今回は、1月中旬以降、新型コロナウイルスの感染が世界規模で拡大する中、ロボティクス技術を活用して、人と人との接触を削減する取り組みを紹介します。

? ロボティクス技術は 医療現場でどのように活用されたのか

医療現場は、人と人との接触を避けることが難しいものです。中国では、接触を避けて診察する方法として、オンライン問診・診断から、調剤や薬の配達、健康チェックまでをカバーする「医療+インターネット」のプラットフォームが提供されています。

このアプリは、平安保険集团などが提供しており、感染リスクを確認できるサービスを提供するアプリもあります。日本でも、オンラインや電話での診療が広がりつつあります。

診断においては、例えば、アリババが通常約15分かかるウイルス診断を約20秒に短縮するAIシステムを、音声AIに強みを持つiFLYTEKが3秒以内にCTスキャンの補助診断ができるシステムを開発・提供しています。

また、自律的に病院内を移動しながら、空気中のウイルスなどを殺菌する紫外線消毒ロボットも活躍しており、1つの病室を10分程度で99.99%殺菌する能力があるといえます。日本でも、ロボット開発のZMPが消毒液散布機能を持ったロボットを商品化しています。



※イメージです。

? 感染防止で人と人との接触を避けるために 誰がモノを運ぶのか

移動の制限や従業員の職場復帰が進まない中、ロボット配達員が食料品などを届けています。

例えば、人が倉庫で商品を積んで配達先を登録するだけで、自ら最適ルートを探して、自動運転で配送することができるので、無接触で届けられるのです。中には、配達先のエレベーターに乗って、玄関先まで届ける“凄腕ロボット配達員”も活躍しているようです。もちろん、感染防止のために、毎日、専門スタッフが何度も消毒しています。



※イメージです。

中国では、大手ECのJD.comや美团点评、アリババなどが無人配達サービスを手掛けており、政府が購入費や運用に補助金をつけています。このほか、外出が出来なくなったオフィスワーカー向けのリモートワーク（在宅やサテライトオフィスでの勤務）アプリや、学生向けオンライン学習アプリの利用が急増しました。

このように、新型コロナウイルスの感染状況の早期把握や、感染拡大防止のために、随所でロボティクス技術が活用されました。そして、人の仕事の一部をロボティクスが代替することで、人が取り扱う情報量と作業の質を向上させることができたのです。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。